

今月のことば

第一の矢は
受ける
けれど
第二の矢は
受けない

(釈尊)

龍谷大学非常勤講師
小池秀章 こいけひであき

「お釈迦さまは四苦（生老病死の苦）を解決された」と聞いた一人の弟子が、「お釈迦さまは病気になるらないのですか？」と尋ねたそうです。すると、お釈迦さまは、「第一の矢は受けるけれど、第二の矢は受けない」と答えたと言われています。第一の矢、つまり、病気そのものの苦しみ（肉体的な苦しみ）は受ける。しかし、第二の矢、つまり、病気から生まれてくる様々な不安や苦しみ（精神的な苦しみ）は受けない、ということです。私たちは、病気になる前には、「病気になったらどうしよう」と不安に思い、病気になったら「なぜ私が病気になるかなければならなかったんだろう」とか「病気になってしまったら、私の人生はどうなるんだろう」などと悩みます。お釈迦さまには、そういった悩みや苦しみはない、というのです。

第一の矢に対しては、医療関係の方々が頑張ってくださいっており、感謝しかありません。第二の矢に対しては、それを創り出しているのは、私たちの心（煩惱）だということを、お釈迦さまは教えて下さっています。また、第二の矢（病気に対する不安）は、自分が苦しむだけでなく、差別や偏見を生み出し、他人も苦しめてしまっているということに、気づかねばなりません。

私たちが第二の矢を受けないようになることは難しい（私には出来ない）けれど、第二の矢こそ、私たちが真剣に向かい合わなければならない問題だということを、仏教は教えてくれます。

合掌